

2012年 4月5日・「朝日新聞」では

放牛地蔵 慈愛の絵本出版

研究会・正田さん「県の宝 知って」

約300年前に建立され、県内に100体以上が残る「放牛地蔵^{ほうぎゆう}」を紹介する絵本を、愛好家で作る放牛石仏研究会(熊本市)代表の正田吉男さん(70)が出版する。長年の研究をもとに子どもが親しみやすい物語に仕上げた。「庶民に愛され、熊本の宝とも言える地蔵を広く知ってもらえたらうれしい」と話す。

研究会によると、地蔵は熊本城の城下町に住んでいた「放牛」と呼ばれる僧侶が、1722(享保7)年から11年間で計118体造ったとされる。味わい深い歌や番号が刻まれているのが特徴で、所在地は熊本市を中心に、東は南阿蘇村、西は長洲町、南は宇土市、北は山鹿市まで広がる。

地元住民は地蔵祭りを開いたり、掃除をしたりして大切にしてきたが、時代とともに存在すら知らない市民も増えたため、絵本で知らせることにしたという。

絵本は「放牛さんとへふり地蔵——鎌研坂の放牛地蔵」。日照り^{きざん}続きによる飢饉で多くの人が亡くなり、耐えかねた住民が放牛に供養のための地蔵造りを依頼。金峰山(熊本市)のふもとに建立すると、村の泉から^{こんこん}水が湧き出したという内容。民間の研究者による資料をベースに、正田さんが昨秋、各地の地蔵を訪ね歩き、1ヵ月かけて創作したという。

地蔵の所在地を詳しく記した「巡礼マップ」も巻末につけた。地蔵がある校区の小学校や公民館などに無料で200冊を配り、一般にも販売する。1冊1500円(税別)で8日の発売予定。

と紹介されています。